国　語　科　学　習　指　導　案

日　時　平成２１年１１月１７日
学　級　紫波町立紫波第一中学校
　　２年６組３９名
場　所　２年６組教室
授業者　古川泰也

１　教　材　　四　古典に親しむ　扇の的　-「平家物語」から -

２　教材について
(1)教材について
　学習指導要領では、「C 読むこと」に関する指導についての留意事項がある。
　「古典の指導については，古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い古典に親しむ態度を育てるとともに，我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること。」「指導に当たっては，音読などを通して文章の内容や優れた表現を味わうことができるようにし，文語における言葉のきまりについては，細部にわたることなく，教材に即して必要な範囲の指導にとどめること。」
　1 年生での古典との出会いの場から発展して、2 年生では原文が中心の教材構成になっており、古文や漢文の表現をもとに古人の心に触れ、古典を楽しむ学習になっている。本単元は物語文学として「平家物語」、随筆として「枕草子」「徒然草」そして漢詩から構成されている。古典は長い時の流れを経てもなお、語り継がれ読み継がれる文章であり、後世の人々に多くの感動や生きる知恵を与えてくれる。自己の内面と対峙するこの時期に、古典に触れ楽しみながら、人間の生き方や考え方に思いをめぐらすことは意義のあることである。
　本教材「扇の的」は我が国の代表的な軍記物語である「平家物語」の一説であり、和漢混淆文の漢文訓読調の硬い響きと、和文脈の柔らかさが溶け合って独特の律動感あふれる文章である。擬音語や擬声語、色彩語を用いたり、対句表現や係り結びを配置したりするなど、語り物として洗練された表現は、声に出して読み味わうのに適している。構成は前書きと本文、本文は原文と口語訳の対照させた二つからなり、「那須与一」が「判官」の命令によって命をかけて扇に向かい、風に揺らめく扇の的を射落とすまでの心情が中心に書かれている。また、戦の最中に余興をしかけ、舞を舞い、敵味方を超えて称賛を惜しまぬ平家に対して、戦であることに徹する源氏の姿も描かれている。御定に従い、罪の無い人をも射倒さなければならない与一の境遇、戦の厳しい現実と向かい合う人々の姿を読むことを通して、生徒は自分なりの考え方を追究できるのではないかと思われる。
　音読や口語訳をもとに、登場人物の気持ちを想像させ、そのことについて自分の考えを持たせ、古典を身近なものに感じさせるようにしたい。現代で生活する人々にも共感する思いがあることや、時代背景から現代と異なる生き方があったことも考えさせたい。
(2)生徒について
　比較的学習に取り組む姿勢は前向きであり、文学的文章での登場人物の心情を考えることは好きであり、意欲的に取り組むことができる。しかし、全体に受け身であり、進んで発言することは多くはない。また、書き込みの速さや話し合いに必要な時間など、言語感覚や思考のレベル、作業のスピードの差が大きい。
　古典に対する関心はあまり高くないようである。古語を読むこと、文章のとらえにくさ、生活習慣や社会状況の違いから、古典を難しいものととらえている。
　そこで、文法的なことには深入りせずに、「古典の文章を読み慣れる」ことを大切にしたい。文語文のもつ響きやリズムのおもしろさを音読によって感じさせたり、視覚的資料を活用しながら興味を持た

せるようにしていきたい。また、授業では人物の心情や場面の雰囲気など、作品のイメージを裏付ける「根拠」を大切にしてお互いの考えを伝え合うようにしたい。

(3)研究に関わって

本校の研究主題「生徒一人一人の『表現力』を高める授業のあり方」を考えていくうえで、国語科として第一に「授業五訓」の徹底を図りたい。次に教科としての「表現力」を伝え合う力ととらえ、話す、聞く、読む、書く活動を複合的に単位時間の中に位置づけたい。

ア　「聞き取る力」を高めるために・・・プリントやノート等に書き込みをする。発言したことに対する自分の考えを発表させ相互交流を図る。

イ　自分の考え（意図）を明確にするために・・・自分の考えを書かせる、表現力を支えるための言語事項や語彙力の指導、読書への発展。

ウ　確かに伝達する力を高めるために・・・書いたものを発表する。書いたものを読み合う。読みとったことを生かして、音読（朗読）する。相互評価による意欲付けの場を設定する。

３　教材の目標

(1)古文のリズムや言葉遣いなどに関心を持ち、登場人物のおかれた状況や心情を読みとろうとする。

（関心・意欲・態度）

(2) 場面の状況を読みとり、その場に置かれた人物の心情を読み取ることができる。（読む）

(3) 古文特有の言葉遣いやリズムをとらえ、その特徴をつかんで読み味わうことができる。

（読む・言語事項）

４　指導計画と評価計画（時間扱い）

	学習内容	関心・意欲・態度	読む能力	言語事項	評価
第一時	・「平家物語」について、成立年代や作品の特徴等について理解する。 ・冒頭部を読み、内容を理解する。	学習する教材について知り、意欲的に取り組もうとする。	文語文の特徴を理解して音読することができる。	古文特有のリズムや言葉遣いを理解することができる。	観察評価 学習シートによる自己評価
第二時	原文を読み、文語文の特徴をとらえる。	古文のリズムや言葉遣いに関心を持って読もうとしている。	歴史的仮名遣いやリズムをとらえて音読することができる。	歴史的仮名遣いや対句等の表現を理解することができる。	観察評価 学習シートによる自己評価
第三時	「扇の的」に至るまでの現代文を読み、内容を理解する。	与一の置かれた状況をから与一の心情をとらえようとしている。	命令を受けるまでの与一の心情の動きをとらえることができる。		観察評価
第④時	与一の置かれた状況と的を射る時の心情をとらえる。	与一が的を射ようとする時の状況と心情を読みとろうとしている。	与一が置かれた状況を根拠として与一の心情をとらえることができる。		観察評価
第五時	的を射た時の周囲の状況と心情をとらえる。	与一が的を射た時の場面を音読しようとしている。	与一が的を射たときの状況や周囲の人々の心情をとらえる事ができる。	擬音語・擬態語や対句について理解することができる。	観察評価

第六時	「御定」により、舞を舞う男を射倒した時の周囲の状況と心情をとらえる。	「あ、射たり」と「情けなし」に注目して人物の心情を読みとろうとしている。	「御定」により男を射る場面で与一の心情の叙述がないことに注目し、戦の非情さをとらえることができる。		観察評価
第七時	場面を選んで朗読の工夫をする。	上記三つの場面から一つを選び、朗読の工夫をしようとしている。	学習した内容や人物の心情を朗読に生かすことができる。	古文特有のリズムや言葉遣いを理解して朗読に生かすことができる。	観察評価

５　本時について

(1)目　標

与一の置かれた状況と的を射る時の心情を読みとることができる。（読むこと）

(2)本時の構想

夕刻の休戦の時間帯であり、気象条件も悪く、しかも、弓の射程を超えたところにある的を射る、という極めて困難な状況であり、源氏と平家が固唾を飲んで見守るなか、与一が神仏に祈りながら弓を射ようとしている場面である。物理的に困難な状況と、源氏の名誉がかかる精神的な圧迫や死を覚悟する悲壮な緊張感をとらえさせたい。前時に学習した内容の「一度は辞退したこと」や「義経の命令は絶対で、辞しがたく」を想起させ、精神的な圧迫についてとらえさせたい。また、「なぜ『与一は弓切り折り自害』する覚悟で射ようとしているのか。」という問いをして与一の心情に迫りたい。

与一の置かれた状況を根拠として、与一の心情についてとらえた内容を、対話や発表を通してお互いに考えを伝え合い、自分の考えた内容と他者の考えたことをもとに、与一の心情についてさらに読み深めさせたい。

(3)本時の展開

段階	学習項目	学習活動	時間	指導上の留意点
導入	０．四字熟語の発表	(1)時間前に発表者は四字熟語と用例のみ板書をし、それ以外の生徒はノートに書き写す。 (2)発表者は四字熟語と意味と使い方を発表する。それ以外は意味を聞き取りノートにメモをする。メモが正確にできたかを確認する。		□聴き取る力を高めるために発表内容を正確にメモすることができたか。
	１．前時確認 ２．課題提示	(1)与一が一度断ったのはなぜか。 (2)断れなかったのはなぜか。		☆与一が源氏全体の名誉を考えたことを振り返らせたい。 ☆「義経の命令は絶対」をもとに発表させたい。
	与一はどんな気持ちで扇の的に向かったのか。			
			１０	

展開	３．音読	(1)学習部分を音読する。一斉読み。		★教科書・学習シート ■評価Ⅰ［読む］ 大きな声で歴史的仮名遣いを間違えずに読むことができたか。
	４．与一の置かれた状況を確認する	(1)天候や時刻、扇の的までの距離、戦場という緊迫した場面であることを、具体的に原文から確認する。 (2)両軍の兵たちや義経の期待も確認する。		□「自分の考えを明確にする力」を高める手立て ☆沖には平家、陸には源氏がいて、両軍が固唾をのんで見守っていることを確認する。 ☆状況をワークシートで確認する。
	５．与一の気持ちを想像する。	(1)与一の心情を根拠に基づいてワークシートに記入する。		□「自分の考えを明確にする力」を高める手立て ■評価Ⅱ［興味・関心・意欲］ 与一の置かれた状況や心情を読みとろうとしているか。 （観察・机間巡視） ☆与一がなぜ神仏に祈る気持ちになったのかを抜き出させる。 ☆与一が祈る神仏が多いこと、最初に祈る神仏が源氏の氏神であり、弓矢の紙である南無八幡大菩薩であることに注目させる。 ☆失敗したら与一の立場はどうなるのかを考えさせる。 「弓切り折り自害」することになる。

	６．対話する。	(1)隣接するもの同士で考えを伝え合う。		□「確かに伝える力」を高める手立て ☆観察・机間巡視を行い、対話をうながす。
	７．交流する	(1)対話で確認してまとめた自分の考えを発表する。 (2)発表者に対する自分の考えを述べる。 (3)発表者の考えを聞き、新しい気付きや考えを深めるために必要な事項はメモする。		□「確かに伝える力」を高める手立て ・発表者の考えと自分の考えを比べて発表するように指導する。 □聴き取る力を高めるために
	８．深める	(1)交流をもとに、与一の心情についてワークシートにまとめる。		□「自分の考え（意図）を明確にする手立て」 ■評価Ⅲ［読むこと］ 与一が置かれた状況を根拠として与一の心情をとらえることができる。
	９．まとめの発表	(1)各自のまとめを発表して、読みを深める。 (2)発表者を見ながら、まとめを聞く。	３５	□「確かに伝える力」を高める手立て □聴き取る力を高めるために
終結	10．授業五訓チェック 11．次時の予告	(1)授業五訓の①～⑤のそれぞれについて挙手で自己評価を行う。 (1)与一が矢を放ち、扇を射切る場面の学習をすることを知る。	５	★筆記用具、学習シート ☆授業五訓を読み上げる。 ☆授業の取り組みについてほめる。